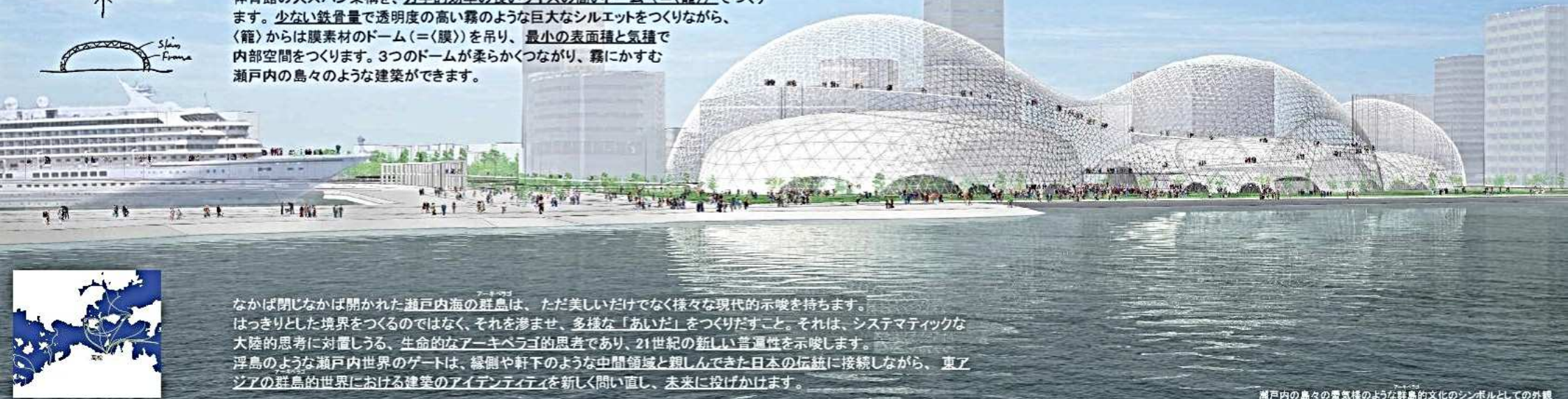
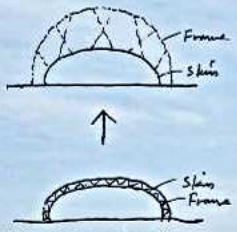


浮島アリーナ

私たちは、瀬戸内の島々の蜃気楼のような建築を提案します

「浮島」として知られる瀬戸内の蜃気楼のように、島のようなドームから、霧のような軽い架構が遊離し浮かびます。瀬戸内海の風景や文化を凝縮したシンボリックな風景が生まれると同時に、大架構と人々の営みをつなぐ、立体的な縁側（中間領域）が生まれます。それは瀬戸内の世界を反映した、滲む建築です。3つのドームが柔らかくつながり、霧にかすむ瀬戸内の島々のような建築ができます。

体育館の大スパン架構を、力学的効率の良いライズの高いドーム（＝〈籠〉）でつくります。少ない鉄骨量で透明度の高い霧のような巨大なシルエットをつくりながら、〈籠〉からは膜素材のドーム（＝〈膜〉）を吊り、最小の表面積と気積で内部空間をつくります。3つのドームが柔らかくつながり、霧にかすむ瀬戸内の島々のような建築ができます。



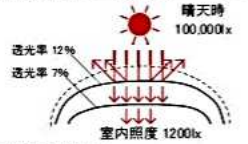
なかば閉じなかば開かれた瀬戸内海の群島は、ただ美しいだけでなく様々な現代的示唆を持ちます。はっきりとした境界をつくるのではなく、それを滲ませ、多様な「あいだ」をつくりだすこと。それは、システムティックな大陸の思考に対置する、生命的なアーキテクトの思考であり、21世紀の新しい普遍性を示唆します。浮島のような瀬戸内世界のゲートは、縁側や軒下のような中間領域と親しんできた日本の伝統に接続しながら、東アジアの群島の世界における建築のアイデンティティを新しく問い直し、未来に投げかけます。

瀬戸内の島々の蜃気楼のような群島の文化的シンボルとしての外観

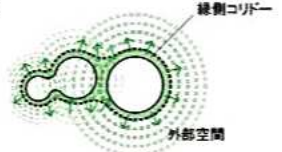
1 海と群島のシンボルとしての体育館をつくります デザイン性



【シルエットとたたずまい】
丸い島々のような外観
海からの見えを強く意識した、霧にかすむ島々のような丸いシルエットをつくります。それは高松駅前広場からも印象的に垣間見え、人々を海辺へと誘います。

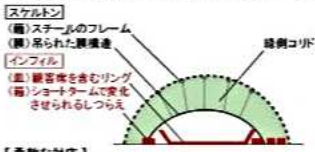


【内部空間の見せ方】
空の下のようなアリーナ
フレームから解放された〈膜〉の下の空間は、明るく空の下のような場所です。拡散する自然光はスポーツに適した環境をつくりだすだけでなく、省エネルギーにも寄与します。MICE などのために水平スクリーンで暗転することもできます。

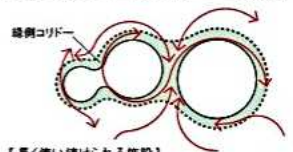


【外部空間との関係】
〈籠〉と〈膜〉のあいだ
〈籠〉と〈膜〉が遊離することで体育館と外部空間の街とのあいだに縁側のような場所ができます。それは、〈膜〉の島が滲み出したような立体的な中間領域であり、海と陸のあいだにある、人々とのインターフェースです。

2 長い将来にわたって使われ続ける建築をつくります 機能性



【柔軟な対応】
インフィルとしての〈皿〉と〈箱〉
〈籠〉と〈膜〉のドーム架構は、シートや諸室によってなる〈皿〉や〈箱〉とは構造的に切り離され、スケルトン／インフィルの関係を持ちます。7mグリッドの鉄骨ラーメンでつくられる〈皿〉や、その内外で展開する〈箱〉は時代やモード変化に合わせて、フレキシブルに変化できます。



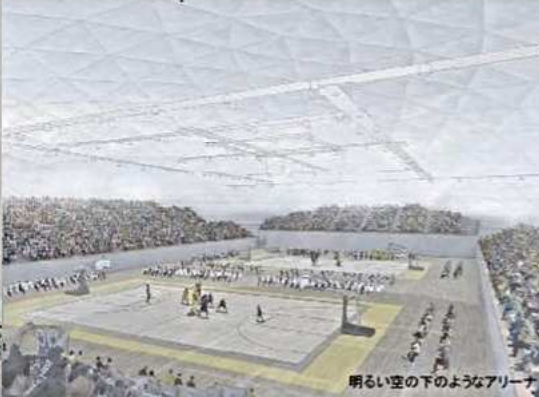
【長く使い続けられる施設】
融通無比な縁側コリドー
縁側コリドーは、使い方のモードに合わせて多様に変化する融通無比な場所です。周辺の街と建物内部との、その時々をつなぐフレキシブルに定義できます。



【多くの人が集まる場所】
市民を巻き込んでつくり使われる
〈皿〉や〈箱〉は、現実の使い方や活用法を実際の使い手の意見をヒアリングしながら、一緒につくります。竣工前から使い手となる人々を巻き込み、長い時間になつたこの場所を支える活動を直します。



【体育館の役割】
愛される建築
高松の玄関口にふさわしい、シンボリックで人々に親しまれる建築をつくります。また、日常／非日常の多様なシーンの背景となる、記憶に残る場所を香川の人々とともにつくることによって長く使い続けたい。愛される建築を目指します。



高松駅前からも見える島々のようなシルエット

明るく空の下のようなアリーナ

〈籠〉と〈膜〉のあいだに人々が集う

サンポート高松から見える海と透明な架構が遊離し合う風景

